一般質問

問 スイートコーン増産への取り組みは
答 生産者と企業の連携強化を

＜日野議員＞

農業振興支援事業、スイートコーン、南瓜について。

一、作付面積が増えない原因をどのように捉えているか。

二、事業計画では、3年後に販売額増加を見込んでいるが、何を根拠としているのか。

三、収穫体制を、生産者個々の対応から、収穫適期、作業効率の改善に向け集約化・合理化の検討をすべきと考えるが如何か。

四、町内企業と生産者の協議が密接にできる体制を構築すべきと考えるが、町はどのように関与するのか。

＜長屋町長＞

一、10アール当たりの収入額が小麦より低いことが原因と考えている。

又、他の原因としてスイートコーンは収穫適期が短く、播種時期をずらしてはいるが、これ以上面積拡大を図ると、後作の小麦の播種作業に支障をきたすことがあげられる。

南瓜は収穫が手作業のため、高齢化や人員不足が原因と考えている。

二、事業実施により自動ラインを導入することで、企業側では人件費、電気料などの大幅削減が見込まれる。これを買い取り価格引き上げにつなげる。

三、企業が、自走式の収穫機を導入することで10％作付面積を増やすことが見込まれる。

この収穫体系の整備で後作との重複問題が解消され、作付面積が拡大すると考えている。

四、出荷先の企業の発展が増産につながる。

連携を深めてもらうために、両者の仲介役としての関係機関である町や農協が俯瞰的に関与していくことも必要だと考えている。

＜日野議員＞

一、原因は収支が合わない事が根底にある。増産の具体策は。

三、適期収穫は品質向上にもつながる。国の補助事業の活用も視野に入れ検討すべきでないか。滝上ブランドの発展にもつながると考えるが。

＜長屋町長＞

一、草地更新も可能なので、酪農家に作付けをお願いしている。

三、生産者組織が機械を導入すると国の補助対象になりやすく、費用負担も少なくてすむ。生産者、企業双方にメリットが大きい方法を検討していきたい。

この企業は※北海道HACCPも取得しており、全国的に高評価を受けている。

これからも滝上町産の原料が使われるスイートコーン、南瓜等の製品の振興についても力を入れていく。

＜日野議員＞

四、地域の基幹産業が維持発展できるように、積極的に双方の仲介役として関与すべきではないか。

＜長屋町長＞

事業の中心となるのは生産者と農産加工場。

生産者と企業が主導して進めていくのを、町はいろいろな面でバックアップしていく。

※北海道HACCPとは

HACCP（ハサップ）とは、原材料の受入から製造・出荷までのすべての工程で発生しうる危害（異物混入等）をあらかじめ予測し、危害発生を防止するための重要なポイントを特定、継続的に監視することで不良製品の出荷を未然に防ぎ、合理的かつ効率的な衛生管理を可能とするシステムです。北海道HACCPは、「北海道HACCP自主衛生管理認証制度」の通称で、北海道では独自の基準を設け、その基準を満たしている企業等の施設の衛生管理方法を認証しています。